

ま　まず、そのまちを好きになる

まちづくりの仕事を頼まれると、依頼内容はいろいろだとしても、まずまちのことを良く知らなければならぬ。なかには今まで一度も訪れたことがないまちのこともある。そうなるゼロからまちのことを調べる必要がある。

文献で調べたり、現地を見たり、いろいろな話を聞いたりするので、なかなか手がかりになる情報が得られないこともある。時にはまちの人から「ここには特にこれといったものはない」と言われたり、「いままでもいろいろやってきたけれど、ここはだめだ」とかネガティブな声しか聞こえてこないこともある。そうなるところらも元気が出てこない。

そんな時に心がけているのは、どんなことでも良いので「まず、そのまちを好きになる」ということだ。良く言われるまちの強みとか弱みなどを分析したからといって、そのまちを好きになれるわけではない。どんなことでも良いので目や耳や五感をつうじて、他の誰もがではなく自分自身が好きになることを見つけるのだ。

自分が好きなまちというのは誰もが思うが、どのまちでも好きになるといえるのは大変だ。このまちはどうしも好きになれないと思ってしまうこともあるかもしれない。それでもまちづくりプランナーとしては、そのまちを好きになれなければダメだと思うのだ。

何をするにも、そのまちを好きだと思えるポジティブな気持ちがないと良いものはできない。まちを調べるうちに見聞きした情報がネガティブなものばかりだったら特に。それに、そのまちの人たちが自慢するものでも自分自身が好きだと言える気持ちを持たなければ、そのものを磨く手にも力が入らない。

そのまちの丘の上に立って見る夕焼けでも良いし、いつも店番よろしく軒先のベンチに座っているおばあさんの笑顔でも、溪谷から聞こえて来る水音でも、庭先の完熟した落ち柿をご馳走してもらった時の味でも、収穫期にまちを漂う野菜の匂いでも。そんなことがまちづくりどうつながるかは二の次で良い。とにかく好きな気持ちを持つこと。それが、初めてのまちに接する第一歩だと思っている。